

平成 17 年 9 月 2 日	病害虫発生予報 9 月号	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
--------------------	-------------------------------	------------------------

安心・安全な農作物は，農薬使用の記録と農薬使用基準の遵守から！
農薬の総使用回数は「有効成分」で規制されます
< 目 次 >

. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
ダイズ：紫斑病，カメムシ類	1
果樹共通(カキ，リンゴ)：果樹カメムシ類	1
抑制トマト：シルバーリーフコナジラミ	2
抑制キュウリ：べと病	2
アブラナ科野菜共通：ハイマダラノメイガ	3
共通害虫：オオタバコガ	3
共通害虫：ハスモンヨトウ	4
【その他の病害虫】	4
ダイズ，サツマイモ，ナシ，ブドウ，カキ，クリ，秋冬ネギ，秋冬ハクサイ， 冬レタス，夏秋ナス，抑制トマト，抑制キュウリ，抑制ピーマン， アブラナ科野菜共通，グラジオラス	
. 病害虫ミニ情報	
ハスモンヨトウの薬剤抵抗性について	7
コナガの薬剤抵抗性について	8
農薬登録速報(7月)の概要	9
. 病害虫資料室	
今月号の病害虫から(コナジラミ類)	11
. 今月の気象予報	
12	
. テレホンサービス	
12	
普通作物	0 2 9 (2 2 6) 5 3 2 1
園芸作物	0 2 9 (2 2 6) 6 1 3 1
<p>本文に記載された農薬の登録内容は，平成 17 年 9 月 2 日現在のものです。 農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用基準，注意事項等を確認してください。</p>	
<p>詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445 予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.jpnn.ne.jp/ibaraki/</p>	

・今月の予報
【注意すべき病害虫】

ダイズ

1. 紫斑病
[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	平年並	県下全域

[予報の根拠]

気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想されている。

[防除上注意すべき事項]

開花期以降から成熟期前までに連続した降雨があるかもしくは予想される場合は、防除を行う。その際、着莢部に十分薬液がかかるように丁寧に散布する。

県内の広い範囲でチオファネートメチル剤（トップジンM）に対する耐性菌が出現しているため、防除を実施する際は、チオファネートメチル剤（トップジンM）以外の薬剤を使用する。また、新たな薬剤耐性菌の出現を回避するため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

明きよを点検し、排水対策に努める。

2. カメムシ類
[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在、発生密度、発生地点率とも平年よりやや高い。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

防除適期は、莢伸長期から子実肥大中期ごろであるが、莢が黄熟する頃まで加害するため、防除適期以降でも発生の多い圃場では、収穫前日数に注意し防除を行う。

成虫だけでなく幼虫も加害するため、幼虫の発生状況にも注意する。

防除の際は、莢まで薬液がかかるように丁寧に散布する。特に、圃場の周縁部はカメムシ類の生息密度が高い傾向にあるため、周縁部への散布は丁寧にを行う。

果樹共通(カキ, リンゴ)

1. 果樹カメムシ類
[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	少ない	県下全域

(果樹カメムシ類 続き)

[予報の根拠]

8月下旬現在,チャバネアオカメムシの予察灯(かすみがうら市,龍ヶ崎市)への誘殺数は,平年よりやや少ない~少ない。

8月下旬現在,ナシにおける被害果率は平年より少ない。

[防除上注意すべき事項]

例年カメムシ類の被害が多い果樹園では,圃場内をよく観察し,カメムシ類が飛来した場合は収穫前日数に注意したうえで直ちに防除を行う。

薬剤散布は,カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。

抑制トマト

1. シルバーリーフコナジラミ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在,寄生葉率,発生地点率とも平年より高い。

気象予報によると,向こう1か月の気温は平年より高いと予想され,ハウス内は発生を助長する温度条件になる。

[防除上注意すべき事項]

発生が多くなると,防除が困難となる。また,本種により果実の着色異常が引き起こされるため,発生したハウスでは防除を徹底する。

薬剤散布は,葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。

病害虫資料室(p.11)参照

抑制キュウリ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在,発病葉率は平年よりやや高く,発生地点率は平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

高温多湿条件で発生しやすくなるので,換気に努める。

発生初期の防除を徹底する。また,薬剤散布は,かけむらのないよう丁寧に行う。

アブラナ科野菜共通

1. ハイマダラノメイガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在，岩間町の誘致植物（クレオメ）における寄生株率は95%で，昨年と比較して高い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

本虫は，アブラナ科野菜の育苗期や本圃の初期に，幼虫が生長点付近を加害する。加害がひどいと芯止まりになるので，早期発見，早期防除に努める。

今後，9月中旬にかけて発生量がさらに増加すると予想されることから，この時期に育苗や定植を行うアブラナ科野菜は特に注意が必要である。

苗床は，防虫ネット等で覆い，成虫の侵入を防ぐ。

平成17年8月25日発表の病害虫情報 No.5 参照

共通害虫

1. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は，水戸市で平年より多く，坂東市で平年並である。

8月下旬現在，ナスでは発生が多かった昨年と同程度以上の発生である。また，レタス，トマト及びダイズでも幼虫の発生を確認している。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

圃場をよく観察し，幼虫の早期発見に努める。齢期が進むにしたがって薬剤の効果は低くなり，中齢幼虫になると果実や結球内に食入するため，食入前の若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

薬剤散布は，葉裏や株元にも薬液がかかるように丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

施設栽培では，出入り口や開口部に防虫ネットを張り，成虫の侵入防止に努める。

2. ハスモンヨトウ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

8月下旬現在，ダイズでは平年並からやや多い発生である。

8月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は平年並からやや多い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

老齢幼虫になると，薬剤が効きにくくなるため，圃場をよく見回り，若齢幼虫のうちに防除を行う。ダイズでは白変葉の発生が防除の目安となる。また，レタスやハクサイでは結球前の防除が特に重要である。

薬剤散布は，葉裏や株元にも薬液がかかるように丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるために，同一系統の薬剤は連用しない。

施設栽培では，出入り口や開口部に防虫ネットを張り，成虫の侵入防止に努める。

病害虫ミニ情報(p.7)参照

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
ダイズ	鱗翅目幼虫	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。気象予報によると，気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。
	べと病	発生量：やや多い	8月下旬現在，納豆小粒で発生が認められ，平年よりやや多い発生である。
サツマイモ	ナカジロシタバ	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。調査圃場では，中齢～老齢幼虫を確認した。
ナシ	黒星病	発生量：平年並	8月下旬現在，発病果率は平年並である。発病の多かった園では，収穫後の防除を徹底する。
	シンクイムシ類	発生量：多い	8月下旬現在，県南及び県西地域で被害果率及び発生地点率が平年よりも高い。被害果は放置せず，土中深く埋めるなど速やかに処分する。
	ナシチビガ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。発生の多かった園では，収穫後の防除を徹底する。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
ブドウ (露地巨峰)	べと病	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。発病の多かった園では，収穫後の防除を徹底する。
	晩腐病	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
カキ	炭そ病	発生量：平年並	8月下旬現在，発生を認めず平年並である。
クリ	炭そ病 (実炭そ病)	発生量：平年並	8月下旬現在，発生を認めず平年並である。
	モモノゴマダ ラノメイガ	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在，平年並の発生である。
秋冬ネギ	黒斑病	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。台風等により，葉に傷が生じると発生が助長されるので，防除を徹底する。
	ネギアザミウマ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
	ネギハモグリ バエ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
秋冬ハクサイ	軟腐病	-	強い風雨により発生が助長されるので，台風等による風雨を受けた場合は，防除を徹底する。
	べと病	発生量：平年並	気象予報によると，向こう1か月の降水量は平年並と予想される。発生初期の防除を徹底する。
冬レタス	菌核病	-	前年発生した圃場では特に注意し，発生初期の防除を徹底する。
夏秋ナス	うどんこ病	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
	マメハモグリ バエ	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。発生状況に応じて防除を行う。
	ミナミキイロ アザミウマ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
抑制トマト	葉かび病	発生量：やや少ない	8月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	オンシツコナ ジラミ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。9月は，気温の低下に伴い，ハウス内は発生に適した温度条件になる。
	ミカンキイロ アザミウマ	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
抑制 キュウリ	褐斑病	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	シルバーリーフ コナジラミ	発生時期：やや早い 発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。葉に 白化症状を引き起こすため，防除を徹底する。
	アザミウマ類	発生量：やや少ない	8月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
抑制 ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並	8月下旬現在，平年並の発生である。
	シルバーリーフ コナジラミ	-	8月下旬現在，幼虫，蛹及び成虫の発生を認めた。 果実に着色異常を引き起こすため，防除を徹底する。
	アザミウマ類	発生量：やや少ない	8月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	タバコガ	発生量：やや少ない	8月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。フ ェロモントラップ(神栖市)への誘殺数は，平年より やや少ない。
ア プラ ナ科 野菜 共通	コナガ	発生量：やや少ない	8月下旬現在，フェロモントラップ(八千代町)へ の誘殺数は平年よりやや少ない。 病害虫ミニ情報(p.8)参照
グラ ジオ ラス	赤斑病	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

ハスモンヨトウの薬剤抵抗性について

ハスモンヨトウは、野菜（キャベツ、ナス、ハクサイ等）、畑作物（ダイズ、ソバ等）、花き（トルコギキョウ等）など広範囲の作物を食害します。ハスモンヨトウは、薬剤の殺虫効果が低下しやすい害虫であり、すでに多くの薬剤に対して抵抗性の発達した個体が発生しています。そこで、主要な薬剤の殺虫効果を確認するため、昨年9月に県内のサトイモおよびダイズ圃場から幼虫を採取し、薬液に浸したキャベツ葉を摂食させる方法により、薬剤に対する感受性を検定しました。なお、齢期が進むにしたがって薬剤に対する感受性が低下する傾向があるため、検定には3齢及び5齢幼虫を用いました。

【結果の概要】

- (1) アファーム乳剤の補正死虫率は、3齢・5齢幼虫とも全ての地点において100%となり、高い殺虫効果が認められました。
- (2) コテツフロアブルの補正死虫率は、1地点では3齢が74%、5齢が72%となりましたが、その他の地点では97~100%となり、高い殺虫効果が認められました。
- (3) エルサン乳剤、ラービフロアブル、トレボン乳剤、アタブロン乳剤、ゼンターリ顆粒水和剤は、地点によって補正死虫率が低い等、殺虫効果にばらつきが認められました。

第1表 各種薬剤に対するハスモンヨトウ3齢及び5齢幼虫の薬剤感受性

系統名	薬剤名	希釈倍率	齢期	補正死虫率(%) ¹⁾²⁾				
				美野里町	大洋村	八郷町	筑西市	下妻市
有機リン剤	エルサン乳剤	1,000	3	88	93	0	20	45
			5	71	25	0	32	30
カーバメート剤	ラービフロアブル	1,000	3	52	100	10	78	33
			5	68	58	19	46	48
合成ピレスロイド剤	トレボン乳剤	1,000	3	41	52	0	86	45
			5	-	8	0	32	46
IGR剤	アタブロン乳剤	2,000	3	73	59	67	94	78
BT剤	ゼンターリ顆粒水和剤	1,000	3	48	46	52	64	28
その他	アファーム乳剤	1,000	3	100	100	100	100	100
			5	100	100	100	100	100
	コテツフロアブル	2,000	3	100	100	74	100	100
			5	100	100	72	100	97

1) 補正死虫率(%) = { (対照区生存虫率 - 処理区生存虫率) / (対照区生存虫率) } × 100

2) 処理48時間後の補正死虫率。IGR剤及びBT剤については処理120時間後の補正死虫率。

【防除上の注意点】

- (1) ハスモンヨトウ幼虫は、齢期が進むにしたがって、薬剤に対する感受性が低下する傾向があるため、若齢幼虫のうち防除を行ってください。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤を連用せず、ローテーション散布を行ってください。
- (2) IGR剤やBT剤は若齢幼虫には有効ですが、遅効性であり、老齢幼虫が発生の主体である場合は、IGR剤やBT剤以外の薬剤を選択してください。
- (3) ハスモンヨトウの薬剤感受性は圃場によって異なるため、薬剤散布後には効果の確認を行い、効果が劣る場合は、その後の防除では系統の異なる薬剤を選択してください。
- (4) 薬剤防除を行う際は、作物ごとに農薬登録の有無を確認し、農薬ラベルに記載の使用基準、注意事項等を守ってください。

コナガの薬剤抵抗性について

コナガは、アブラナ科野菜（ハクサイ、キャベツ、ダイコン等）の重要害虫であり、また薬剤の殺虫効果が低下しやすい害虫です。そこで、主要な防除薬剤の殺虫効果を明らかにするため、昨年11月に現地圃場からコナガの幼虫を採取し、薬液に浸したキャベツ葉を摂食させる方法により、薬剤に対する感受性を検定しました。

【結果の概要】

- (1) アクテリック乳剤、エスマルクDF、コテツフロアブル、スピノエース顆粒水和剤の4薬剤は、全ての地点において補正死虫率が100%となり、高い殺虫効果が認められました。
- (2) エビセクト水和剤は補正死虫率が93~100%、アフーム乳剤は90~100%、プレオフロアブルは96~100%となり、高い殺虫効果が認められました。
- (3) アタブロン乳剤の補正死虫率は30~72%とやや低く、安定した殺虫効果は認められませんでした。

以上の結果から、コナガに対しては、アクテリック乳剤、エスマルクDF、コテツフロアブル、スピノエース顆粒水和剤、エビセクト水和剤、アフーム乳剤、プレオフロアブルを組み入れた防除体系が有効であると考えられます。

第1表 各種薬剤に対するコナガ3齢幼虫の薬剤感受性

系統名	薬剤名	希釈倍率	補正死虫率(%) ¹⁾²⁾			
			水戸市	鹿嶋市	つくば市	坂東市
有機リン剤	アクテリック乳剤	500	100	100	100	100
ネライストキシン剤	エビセクト水和剤	1,000	100	93	100	100
IGR剤	アタブロン乳剤	2,000	67	30	70	72
BT剤	エスマルクDF	1,000	100	100	100	100
その他	アフーム乳剤	1,000	100	97	96	90
	コテツフロアブル	2,000	100	100	100	100
	スピノエース顆粒水和剤	2,500	100	100	100	100
	プレオフロアブル	1,000	97	96	100	100

1)補正死虫率(%) = {(対照区生存虫率 - 処理区生存虫率) / (対照区生存虫率)} × 100

2)処理48時間後の補正死虫率。IGR剤及びBT剤については処理72時間後の補正死虫率。

【防除上の注意点】

- (1) コナガの薬剤抵抗性の発達を抑えるため、防除を行う際は、系統の異なる薬剤をローテーション散布してください。
- (2) 防除効果が低い薬剤を散布すると、コナガが生き残る一方で、天敵類が減少してしまい、逆にコナガの被害を増加させる場合もあるので、薬剤の選択には十分注意してください。
- (3) 幼虫の齢期が進むにしたがって薬剤に対する感受性が低下するため、発生初期の防除が重要です。薬剤は、葉裏にもよくかかるよう丁寧に散布してください。

農薬登録速報（7月）の概要

平成17年7月期間中（7/1～7/31）に新規・変更登録のあった農薬は、以下のとおりです。なお、農薬の使用にあたっては、必ずラベル等を確認してください。

殺虫剤・殺菌剤・殺虫殺菌剤・殺そ剤等

新規>ダコニールT顆粒水和剤，チオノックフロアブル

変更>インプレッション水和剤，オリブライト1キロ粒剤，オリブライト250G，カスラブサイドゾル，カスラブジョーカーゾル，カスラブジョーカー粉剤DL，カスラブスマリッサ粉剤DL，カダンセーフ，カルホス粉剤，カルメート55，グリーンダイセンM水和剤，ジマンダイセン水和剤，ダコソイル，ダコニール顆粒水和剤，ダントツH粉剤DL，ダントツフロアブル，ダントツ箱粒剤，ダントツ粒剤，チーフメイト乳剤，デランフロアブル，テルスターフロアブル，トップジンM粉剤，トモノールS，トルネードフロアブル，トレボンスカイMC，ハーベストオイル，ビートルコップ顆粒水和剤，ピオネクト，プラズマ油剤，フルスウィング，フロンサイドSC，ベフラン液剤25，ヘリテージ顆粒水和剤，ホクコーカスラブスタークル粉剤DL，ホクコーカスラブトレボンゾル，ホクコーカスラブバリダゾル，ホクコー撒粉ボルドー粉剤DL，モンカットファイン粉剤20DL，ラブサイドジョーカー粉剤DL，ラブサイドスタークル粉剤DL，ラブサイドフロアブル，ランネット微粒剤F三共，ロディー乳剤，軍配印石灰窒素50，軍配印粒状石灰窒素55，石原アオバ液剤，石原ネマトリンエース粒剤

除草剤等

新規>こっぴみじん，ネコソギX粒剤，ホクコーダッシュワン1キロ粒剤，協友アクト1キロ粒剤，協友アクト粒剤

変更>アールワン1キロ粒剤51，アールワン1キロ粒剤75，イネエース1キロ粒剤，イノーバDX1キロ粒剤51，イノーバDX1キロ粒剤75，オクスフロアブル，クサトリードX1キロ粒剤51，クサトリードX1キロ粒剤75，クサトリードXジャンボH，クサトリードXジャンボL，クリンチャー1キロ粒剤，クレマート乳剤，ゴーゴーサン乳剤30，ゴヨウダジャンボ，サットフルLフロアブル，ショウリョクジャンボ，シロノックHフロアブル，シロノックLフロアブル，スマートフロアブル，ダイナマン1キロ粒剤75，ダブルスターSB1キロ粒剤，ダブルスターSBジャンボ，テクノスターワイドジャンボ，デュポンロックス，テラガード1キロ粒剤51，テラガード1キロ粒剤75，テラガード250グラム，テラガードL250グラム，テラガードLフロアブル，テラガードフロアブル，テロス1キロ粒剤，テロスフロアブル，トップガンGT1キロ粒剤51，トップガンGT1キロ粒剤75，トップガンL250グラム，トップガンLジャンボ，トップガンLフロアブル，トップガンジャンボ，トリプルスター1キロ粒剤，トレディプラス1キロ粒剤，ハービー液剤，パワーウルフ1キロ粒剤51，パワーウルフ1キロ粒剤75，フォーカスショットジャンボ，フレノック液剤30，フレノック粒剤10，マーシェット1キロ粒剤，モンサントマーシェット乳剤，ラクダープロ1キロ粒剤51，ラクダープロ1キロ粒剤75，ラクダープロフロアブル，リーディングSジャンボ

植調剤等

変更>ストッポール液剤，プリモマックス液剤

失効農薬

2，4-D「日産」アミン塩，T-7.5プロチオン乳剤，カイ印ボルドー液用生石灰，クミアイディプレックス粉剤DL，クミアイパダンバッサ1キロ粒剤，クミアイロブジマン水和剤，シオノギ・スペックス水和剤，スタッカー水和剤，トクノールM水和剤，トモノマラソン粉剤3，トモノロディー水和剤，バックアップ80水和剤，バックアップD水和剤，バッサ粒剤，ヒノスミトレボン粉剤DL，ヒノスミバッサ粉剤DL，プリモWSB水和剤，プロハービー(L)水和剤，マルア硫酸銅塊，ムシムシ100，ルーバンバリダ粉剤DL，ローヌ・プーラングラコーン水和剤，ローム・アンド・ハースプロハービー(L)水和剤，三共ディプレックス粉剤DL，三共ヒノラブバイバッサ粉剤35DL，三菱バッサ粒剤，有機ロブジマン水和剤

農薬の登録失効は，同一成分の農薬においても販売メーカー毎になりますので，ご注意願います。

病害虫資料室【今月号の病害虫から】

病害虫防除所ホームページ上で、写真をご覧ください。
ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/ibaraki/>

施設野菜のコナジラミ類

シルバーリーフコナジラミ

発生生態と被害：1989年に、日本への侵入が確認された。施設栽培の野菜、花きなどで発生が多い。本種の発育適温はオンシツコナジラミのそれよりも高く、高温期に発生が多くなる傾向がある。成虫は、オンシツコナジラミよりやや小ぶりで、体色は黄色みを帯びる。蛹は、オンシツコナジラミが白色であるのに対し、シルバーリーフコナジラミは黄色である。

多発生すると、排泄物によりすす病(症状)を生じる。葉の寄生部位に退緑小斑点が生じ、莖葉、果実が退緑～白化する着色異常を起こし商品価値をなくす(退緑～白化した葉はシルバーリーフと呼ばれる)。

本種は、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスであるTYLCVを媒介する。なお、TYLCVは本県では未発生であるが、近県で発生が確認されている。トマト新葉が黄化して縁から巻き込むなど、本病が疑われる症状を確認した場合は、病害虫防除所へご連絡ください。

オンシツコナジラミ

発生生態と被害：1974年に、日本への侵入が確認された。野菜、花きなど多くの植物に寄生する。発育適温はシルバーリーフコナジラミよりも低く、冬季は、加温施設内であれば増殖を続け、野外では雑草上で越冬する。施設野菜では、気温が上昇する3月以降、及び盛夏期を過ぎた8月下旬以降に多くなる傾向がある。

多発生すると、排泄物によりすす病(症状)を生じ、葉、果実等が汚れる。

本種は、キュウリ及びメロン黄化病の病原ウイルスであるCYVを媒介する。

防除のポイント(共通)：

施設内外の除草を徹底する。また、観賞植物等をハウス内に持ち込まないなど、耕種的な措置を徹底する。

オンシツコナジラミとシルバーリーフコナジラミとでは感受性の異なる薬剤があるため、発生種を正確に判別することが重要である。

育苗期の防除を徹底する。また、葉裏に寄生するため、ノズルを上向きにして下方から散布するなど、薬液が葉裏によくかかるようにする。

多発生してからの防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

同系統の薬剤を連用すると薬剤抵抗性の発達をもたらすので、異なる系統の薬剤でローテーションを組む。

天敵製剤(寄生蜂)は、コナジラミ類の密度が極めて低いうちに処理する。

- 写真1 シルバーリーフコナジラミ幼虫及び蛹
- 写真2 オンシツコナジラミ幼虫及び蛹
- 写真3 シルバーリーフコナジラミ成虫
- 写真4 シルバーリーフコナジラミによるトマトの着色異常果
- 写真5 オンシツツヤコバチ成虫(コナジラミ類の天敵)

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 9月3日から9月2日)

気象庁(9月2日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	30	60
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。前半を中心に気温が高く, 残暑が厳しい見込みです。向こう1か月の平均気温は高いでしょう。降水量は平年並でしょう。日照時間は平年並でしょう。

< 1週目の予報 > 9月3日(土曜日)から9月9日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い

< 2週目の予報 > 9月10日(土曜日)から9月16日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い

< 3週目から4週目の予報 > 9月17日(土曜日)から9月30日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並か高い

・ テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために, 病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

普通作物 029(226)5321

9月上旬 ダイズ病害虫の防除対策について

下期 サツマイモ病害虫の防除対策と, 稲刈り後の水田管理について

10月上旬 麦の種子消毒と縞萎縮病の対策について

園芸作物 029(226)6131

9月上旬 施設野菜病害虫の発生現況と防除対策について

中旬 ナシ病害虫の秋季防除とクリシギゾウムシの防除対策について

下旬 施設野菜及び露地野菜病害虫の発生現況と防除対策について

10月上旬 ナシ病害虫の秋季防除について